

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201202		
法人名	社会福祉法人 豊生会		
事業所名	グループホームひかりの家 あやめユニット		
所在地	札幌市東区東雁来12条4丁目1-12		
自己評価作成日	平成30年11月30日	評価結果市町村受理日	平成31年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご利用者様、個々に送ってきた生活を大事にするために生活歴や趣味など、細やかな情報収集を行いながら、楽しみのある生活を送ることができるよう、自己選択の視点を忘れずに個人に合わせた活動提供を行っている。
 ・施設内に併設している、ひかりの保育園や小規模多機能型居宅介護事業所ひかりの与交流を積極的に行いながら、ご利用者様に楽しみや刺激のある生活を提供している。
 ・ユニット内の装飾や行事を工夫し、季節感のある生活を提供している。
 ・医療との連携(訪問診療や訪問看護)を密に取り、ご利用者様の小さな体調変化も見逃さずに安心できる生活を提供している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_02_2_kan=true&JigyosyoCd=0190201202-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成30年12月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成30年1月、東雁来唯一のグループホームとして開設した2ユニットの事業所である。隣接の法人特養施設を母体とし、行事や研修、防災、食事提供等で密に連携している。事業所は、東雁来交流センターの2階フロアにあり、1階には小規模多機能事業所と保育園が併設されている。地域密着の体勢に則り、地域関係に力を入れており、特に併設事業所の地域高齢者や園児とは、毎月実施のカフェや敬老会等の行事、畑の収穫を一緒に行うなど、日常的な交流を目指している。ケアサービスでは、利用者一人ひとりの個性や生活歴を理解し、できる限り今までの生活の継続と笑顔ある暮らしを大切に、希望を叶える取り組みに努めている。利用者の健康を支える協力医療機関との連携も良好であり、終末期を見据えた体制作りを進めている。利用者は自然豊かな地で、機能的且つ広く明るい事業所内でゆったりと過ごしており、職員は其々の持ち味を活かしながら、理念を基軸に安心の居場所であるホーム作りに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の理念はあるが共有・実践にはいたっていない。 ・理念を目標にし努力している途中である。 ・事業所の理念を業務の中で実際に実践することができている。 	開設時に、法人理念を踏まえ、地域密着型事業所として独自の理念と実践に向けた行動指針を策定している。職員入職時や研修などで理念の浸透を図り、全職員で理念を基本としたサービスの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・サマーフェスティバルなどを行い地域との交流を行うことができている。 ・地域に根差した併設保育園などとの交流もあり地域とのつながりを感じることができている。 ・行えているが頻度は少ないと思う。 	地域とは、隣接の特養施設中心の関わりが多く、施設の祭りや行事等で交流の機会を持っている。同一建物内である小規模多機能事業所や保育園とは日常的な交流を目指しており、地域の高齢者や子供達とふれ合う場面を工夫している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症への理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で事業所の活動報告を行い、認知症への人への理解などを伝えることができている。 		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で実際の活動などを報告し、サービスの向上に生かすことができている。 	3月に初回を開催し、2カ月毎に小規模多機能事業所と合同で実施している。家族や地域、包括センター職員や知見者等の参加があり、事業所の取り組みや現状を報告し、理解が深まるように努めている。家族には会議案内を送付し、参加要請を行っている。	家族参加者が固定されているので、全家族に運営推進会議の意義や会議内容の周知を行い、併せて議事録の記載方法の工夫や事業所内の掲示などにより、事業所の理解や会議の参加に繋がる取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者が行い、行うことができている。 	行政との対応は管理者やケアマネジャーが行い、介護保険に関する確認や認定更新関係、各種報告等で連携している。会議や研修会、集団指導などでも行政からの情報を得て、運営やサービスに活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルや研修会の参加を行い、スタッフは身体拘束をしないケアを心掛けている。 ・身体拘束の理解を事業所として行っており、取り組むことができている。 ・普通のケアの中でもどのような行為が身体拘束に当たるかなどを確認しケアを行っている。 	身体拘束廃止に向けた指針を作成し、適正化委員会の内容は職員に周知している。職員は、法人研修や事業所勉強会で正しいケアの在り方を学んでいる。スピーチロック等への注意喚起を行い、拘束の無いケアの実践に繋げている。玄関は電子錠であるが、各ユニットドアは日中は施錠せずに、安全面と抑圧感の無い暮らしに配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待の見逃しがないようにスタッフ同士が声をかけ合い防止に努めている。 ・マニュアルや研修会の参加などを行い、虐待への理解を深め防止に努めている。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 理解している職員はいるが必要性については話し合うことができていない。 学ぶ機会を持つことができていない。 個々で研修に参加し、活用できるように支援している。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> 重要事項説明書などを説明し、理解や納得を得ることができている。 		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議や、ご家族来所時などに意見を聞くことができおり反映することもできている。 ご意見箱を設置し、反映させることができるような努力をしている。 	利用者や家族の意向は、日々の関わりや面会時、介護計画の見直し時などで聞き取るようにしている。家族の来訪時には、主にリーダーや居室担当職員が対応し、ケア上の要望は速やかに改善するなど、サービスへの反映に取り組んでいる。	法人の広報誌により、事業所の活動等を発信しているが、事業所独自の通信を作成し、利用者・家族の知りたい内容等も含めた情報発信の取組みを期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の個人面談や日々の業務の中でスタッフの意見や提案を聞いてもらうことができている。 管理者と話しをする機会を設けられ、職員の意見を聞いてくれている。 	開設1年未満の段階であり、職員の率直な意見表出を大切に、話し合い調整しながら新たな事業所作りに取り組んでいる。委員会活動や業務上の役割を通して、職員個々の持ち味を活かすようにしている。職員個別に管理者が年2回、また随時の面談で意見を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 説明を受けた部分もあるが、まだわからないのほうが多い。 年二回の個人面談と人事考課プログラムの中で行うことができている。 		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> 法人内での研修会や、外部研修の希望を受け付け、機会の確保がされている。 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> 外部の研修への参加機会を設け、交流などを行うことができている。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・サービス開始時からコミュニケーションを積極的に行いながら、本人の要望やこれまでの生活歴、好みなのを伺い、スタッフ間で常に情報の共有を行い、本人との関係作りに努めている。 ・本人の要望があればケアマネや管理者との情報共有を行い関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ケアマネージャーを中心に不安や要望のニーズをつかみながら、関係作りを行っている。 ・ご家族様が来られた際に、不安や要望がないかを確認しながら関係作りに取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・サービス開始する前の段階で本人が本当にサービスを必要としているかを見極めながら、他のサービス利用も検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・日々の生活の中で本人の不安を共有しながら暮らしを共にするものとしての関係作りに努めている。 ・本人がいままで行っていた生活になるべく近くづくことができるように考え、関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・事業所に来ていただいた際に、日常生活の様子などを共有し、共に支えあう関係を作ることができるように努めている。 ・事業所に来られた際に気になる点などはないかを確認し、ご家族様と共に支えることができるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族との外出や外泊などができるように支援している。 ・行おうとはしているが、業務の中でできない部分もある。	職員は様々な場面で、利用者個々の生活歴や好きな事の把握に意識して努めている。知人の方の面会や長年の友人と旅行に行ったり、家族の協力で自宅帰省や馴染みの床屋に行く利用者もあり、今までの生活や関わりの深い人達との関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・一人ひとりが孤立しないように、関係性を作る努力をしている。 ・スタッフが介入しながら一緒に作業などを行い、利用者同士が関わり合えるような環境作りをしている。 ・食事座席などを工夫し交流できるような環境作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・現状ではそのような機会はないが今後、行っていけるようにしていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人ひとりの意向を確認しながら、本人の希望にそった支援ができるようにし、難しい場合はご家族様などとも話し合いながら希望のある暮らし方を検討している。	日々の関わりで思いの聞き取りや選択できる問い掛けをして、本人の意向の確認を重ねている。家族から得た情報を参考に、表情や仕草から察した気付きや、本人の具体的な言葉を記録に残すなどして情報を蓄積し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・日々の生活の中から、生活歴やなじみの暮らし方の把握に努め、スタッフ間で情報共有している。 ・アセスメントシートを活用し、利用の経過などが分かりやすくなるように努めている。 ・ユニット会議を使い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・ご本人との会話、実施記録などで把握に努めている。 ・日々の状況を朝のカンファレンスで情報共有を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・居室担当制にしており、担当者がモニタリングなどを行い、ケアプランに本人の思いや、意見が反映できるように努めている。 ・利用者の情報を共有し、ケアマネジャーとの情報共有を行い反映、作成を行っている。	介護計画作成は、事前に把握した利用者、家族の意向を尊重し、医療面の助言を反映している。3～6カ月毎、または状態変化に即して、居室担当職員のモニタリングをもとに、ケアマネジャーを中心に、職員全体で利用者の安心の暮らしの支援に向けて協議している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子を記録へ記載し、朝のカンファレンスやユニット会議の際に情報を共有し見返すことができるようにしている。 ・情報共有の中から新たなアセスメントを行い実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・多様化しているニーズの中で、利用者が一番大切にしたいものを個別に支援できるようにしている。 ・家族のニーズも抽出し、支援ないようを広げられるか検討を重ねている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・運営推進会議の中で地域資源を把握し、本人が安全に地域で暮らすことができるように情報の共有などを行っている。 ・併設している保育園などとの交流を積極的に行い、暮らしが豊かになるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・訪問診療医の月2回訪問にきていただき、かかりつけ医としての関係性を気づいている。 他の受診が必要な際はかかりつけ医への相談を行い、スムーズに他への受診に繋げている。	本人・家族の意向を尊重し、月2回協力医療機関の訪問診療を導入している。訪問医とは、状態変化時の迅速な指示や他科紹介を得られる心強い連携関係を築いている。家族が付き添う専門科受診も、事業所が情報提供や送迎などの協力をしながら、適切な医療支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・週1回訪問看護ステーションと医療連携体制を整えており、個々の利用者に適切な看護や情報を提供していただくことができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	・ケアマネージャーを中心として、入院時や早期退院に向けた情報交換や相談に努めている。またかかりつけ医とケアマネージャーを中心に、必要時に必要な医療機関を提供できるように関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでい	・かかりつけ医、事業所、家族での終末期への在り方についての書類を整備している。 ・事業所のできる範囲を説明し、方針に協力していただくことができるように支援している。	契約時に重度化への対応指針を説明し、同意を得ている。状態変化時では家族の意向を確認し、場合によっては医師も含めて三者の話し合いの場を設け、支援の方向性を共有している。今後の支援強化に向け、法人看取り委員会に参加し、事例による学びを重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時のマニュアルを整備し、急変時に確認しながら対応できるようにしている。 ・各ユニットや併設事業所との情報共有を行い、急変時に協力体制を組めるようにしている。 ・応急手当の初期対応の訓練はまだ行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回、避難訓練を実施し災害や、火災など昼夜問わずに利用者が避難できる方法を身につけるように努力している。	年2回併設の小規模多機能事業所と合同で、設備会社の参加により昼・夜想定での避難訓練を実施している。2カ所の階段が避難経路であり、隣地の特養施設を避難場所としている。9月の震災を検証し、必要とされる災害時備品や備蓄、簡易トイレや暖房機器等を用意している。	事業所では、自然災害等マニュアルの作成を進めており、災害時の対応を職員間で共有し、非常時に迅速に対応できるよう机上や実践訓練の取組みを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・誇りや、プライバシーを損ねないような声掛けを日々、心掛けている。 ・不適切な言葉かけがないように法人内の不適切ケア研修に参加し学びを得ている。	接遇マナーは対人関係の基本姿勢として重視しており、職員は人生の先輩とし利用者を敬い、一人ひとりに沿う対応を心掛けている。日々の言葉掛けを始め、排泄場面でも誇りやプライバシー、羞恥心に十分注意した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	・常に自己決定ができるような声掛けを心掛けるようにしている。 ・自己決定支援ができるように指導を受けており、意識して行っている。 ・傾聴をしっかりと行い、本人が望まれていることを態度や表情から読み取り、働きかけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・入浴や散歩、レクリエーションなど本人が希望しないときは無理をせず本人の希望に沿って支援している。 ・本人の希望をあらかじめ確認し、思いに沿った支援ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・整容はできるだけ、各自で行うことができるように声掛けや準備などを工夫支援している。 ・服などの身だしなみは、なるべく選ぶことができるように声掛けで支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事作りはしないが、調理レクやおやつ作りなどを行い、機会を作るようにしている。 ・生活リハビリの中に食器拭きなどを盛り込み取り組みができるようにしている。 	食事は、栄養管理された特養施設厨房から取り入れ、代替え食は利用者の状況に応じて柔軟に対応している。利用者にしてできる作業をお願いし、1、2カ月に1度は調理レクと称し、皆でおやつ作りや調理をして、生活意欲に繋げている。誕生日は本人の希望の食事を用意するなど、変化や楽しみの食事を工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食量や食形態をアセスメントし、個々の状況に合わせて提供している。 ・水分量も本人の状態に合わせて(疾患などに配慮)提供している。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後の口腔ケアを実施し、口腔衛生への配慮を行っている。 ・口腔内への問題があれば、訪問歯科を依頼し早めの処置ができるように支援している。 		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の排泄リズムに合わせた声掛けを行い、トイレでの排泄を促している。 ・行動動作の中からタイミングを見極め、失敗しないような支援を行っている。 	排泄チェック表の活用や本人の仕草からトイレに誘導する事で、失敗の軽減に繋がり、自立支援に取り組んでいる。下着や衛生用品の使用選択も密に検討し、日々気持ちよく過ごせるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食時にヨーグルトや牛乳などを提供し、栄養士によるバランスのよい食事の提供ができています。 ・体操や水分摂取などを積極的に行っている。 ・かかりつけ医に排泄の相談をしながら便秘予防に取り組んでいる。 		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴表の作成はしているが、なるべく個々のニーズに合わせた入浴支援をしている。 ・入浴の際も、入浴剤を選んでもらうなど、入浴を楽しめる工夫を作っている。 ・実際に入浴は週2回となってしまうが必要に合わせて調整をしている。 	午前・午後の時間で週2回以上を目安に入浴を支援している。状況や希望に沿い、リフト浴や同性介助等に対応し、安心してゆっくりと入浴できる環境作りをしている。拒ばむ場合も気持ちを受けとめ声掛けを工夫している。数種の入浴剤や時には湯上りドリンクを用意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの生活リズムを把握することができているため、安眠できるタイミングを見計らい声掛けしている。 ・眠気や疲れが見えている場合もあるためタイミングを見計らい支援をしている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・服薬情報などを確認し、把握することができている。 ・薬の影響や副作用などを必ず確認し、情報の共有を行っている。 ・服薬支援の際は必ず二人で確認し、服薬事故のないように支援している。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・その人に合わせたお誕生日会や併設施設と合同の行事などで楽しみや気分転換の機会を作り支援している。 ・生活リハビリなど、本人の役割を作り満足感のある生活を支援している。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の希望に応じて、お誕生日の機会に普段いけないような場所への外出支援をしている。 ・日常の中で、外出への希望があれば可能な限り外出ができるように支援している。 	春から晩秋までは、できる限り戸外に出る場面の提供を心掛けている。散歩や買い物、特養施設の行事参加、園児と一緒に畑の水遣りや収穫をするなど、楽しみや気分転換を図っている。行事的外出としては、ユニット企画や個別の希望を叶えるなど、外出の機会作りに取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・お金の使い方がわかるようにご利用者と買い物にいく機会を作るようにしている。 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・電話や手紙のやり取りを希望されることは少ないが、必要に応じて行っている。 		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・季節感あふれる装飾を作り、1年中常によく楽しく季節がわかるように工夫している。 ・スタッフ紹介を作り、利用者がスタッフの顔をいつでもわかるようにし安心感のある空間を作っている。 ・混乱を招かないように、整理できるものは整理している。 	建物2階にある事業所は、2ユニットが自由に行き来ができ、リビングも広く、全体としてゆったりと開放的な住環境である。職員の手製や利用者と共に作った作品で、季節毎に和やかな雰囲気作りをし、利用者の居場所感を支えている。エレベーター前のフリースペースにもソファを設置し、月1回のカフェ開催などに活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ソファの配置やイスの配置に工夫をし、一人ひとりが安心した生活を送れるように支援している。 ・テーブルでの座席に配慮し、落ち着いた空間で過ごせる配慮をしている。 		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族様と相談をしながら、いままで使ってきたなじみのものや自宅の空間に近くなるように雰囲気づくりを行っている。 ・物の配置を工夫し、不安がなく安心して居室で過ごせるように工夫している。 	居室には、調度類や小型家電が持ち込まれ、大切な仏壇、家族写真も飾られている。クローゼットは収納力があり、スッキリと整頓しやすくなっている。利用者・家族には馴染みの物の持参を勧めており、本人の安らぎの空間作りに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレがわからないという不安がないように、トイレの上に飾りつけをし、安心して場所が分かる配慮をしている。 ・利用者の移動導線を考え、安心して歩いて生活ができるように工夫している。 		